



Supercar Rally Challenge 2014

No.1 Hamamatsu Stage 100km

昨年も開催されたスーパーカーラリーチャレンジ、その第1戦が3月22日に浜松で開催された。今年は3戦の開催を予定しており、その幕開けとなった形だ。

文●編集部
text by ROSSO
写真●山本佳吾
photos by YAMAMOTO Keigo
取材協力●NASC
http://www.nasc.jp/

スーパーカーラリーチャレンジのシリーズ第1戦が浜松で幕開け

ラリーを始め、さまざまなモータースポーツ運営で知られるNASCC主催の『スーパーカーラリーチャレンジ』。今年も3戦が予定され、その第1戦となる『浜松ステージ100km』が3月22日に浜松市で開催された。

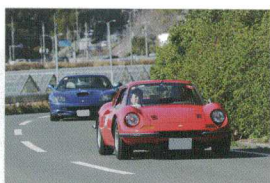
こちらはクルマのパフォーマンスを味わうというよりは、地元風景や食事を味わいながらゴールを目指しつつ、途中P.C.と呼ばれるタイム計測ポイントを含めることで、ゲーム性を持たせたもの。1日約100km走行という手軽さから、スーパーカーを使った遊び場として好評を得ている。

クラスはスーパーカー、ビンテージ、フェラーリ・クラブ・オブ・ジャパン（FCJ）、同ビンテージという4クラスに別れており、今回は約30台のスーパーカーたちが参加した。FCJはもちろんフェラーリ・オンリーだが、スーパーカークラスでは上の写真にあるマクラーレン、そしてポルシェ、ベントレーなどの姿も見受けられた。

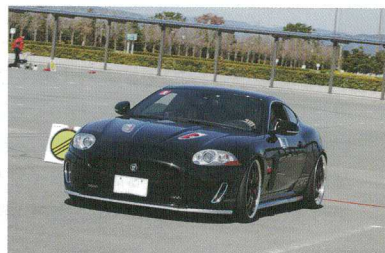
この日は浜松市内をスタート、ブルーツパーク、動物園、鍔山寺、浜名湖渚園を経て、うなぎバイファクトリーでゴールするというコース。晴天に恵まれ、景色を楽しむには十分な天候だった。なお前日には浜松駅前に参加車両10台を展示。この10台の中にはフェラーリF40のGTマシンとロータスF1マシンが含まれ、通行人の注目を浴びた。実は後援に浜松市が含まれており、こういった展示に協力的なのだ。

なお第2戦は9月21日に滋賀県で開催される。11月30日に東京で開催される最終戦は、第1、2戦の参加者が出場可能という点なので、気になる方は参加を検討されたい。[®]

途中用意されたP.C.と呼ばれる、通過タイムの正確さを競うゲーム。助手席のナビゲーターとのコンビネーションが問われる瞬間だ。スマホ片手に時間を計る参加者、体を少し乗り出してタイヤが触れる瞬間を見極めるオープンカーの参加者など、その光景はさまざま。



ワンデイ約100kmのラリーということで、慌たたくないのもこのイベントの魅力。昨年は雨だったが、今年は見事に快晴。浜名湖周辺の景色を楽しみながらの走行となった。



左はゴール地点となる「うなぎバイファクトリー」の駐車場。うなぎバイを作る過程を見ることができた。右はMG-TA。スーパーカーの次はビンテージでの参加を目指したい。



この日の参加車は約30台。クラスが細分化されているため、多くの人が表彰を受けられる。会場はうなぎバイファクトリー2階にあるカフェということで、こんなスイーツも登場。

